

The Western Capital of Ancient Japan

古代日本の「西の都」 ～東アジアとの交流拠点～



01 プロローグ



日本の西、九州・筑紫の地には、かつて都がありました。それが大宰府です。およそ1,300年前に誕生した大宰府は、「天下第一都会」と呼ばれるほど賑わい、古代・中世を通して、日本国内や海外からもたらされる先進文化で彩られていました。

02 激動の時代から交流の時代へ



この地は大陸や朝鮮半島とも近く、はやくから東アジアとの交流が始まり、優れた文化や技術がもたらされ続けました。

しかし、常に平和な交流だけではなく、663年、友好関係にあった百済の復興を目指した当時の日本は、白村江の戦いに敗れ、唐・新羅の脅威に備えて防衛体制を整えました。とくに、国際交流の窓口であった筑紫の地には多くの城塞が築かれ、守りが固められました。



やがて緊張の時代をこえ、新たな交流のステージへと進みます。唐の都を訪れた遣唐使の情報をもとに、碁盤目のように区画された街が整えられ、様々な役所や、外国使節の迎賓館、瓦葺きの壮麗な寺院などが建ち並ぶ、「西の都」大宰府が誕生しました。博多湾岸に到着した外国使節は、直線的にのびる官道をすすみ、大宰府へと入り、楽の演奏や豪華な食でもてなされました。

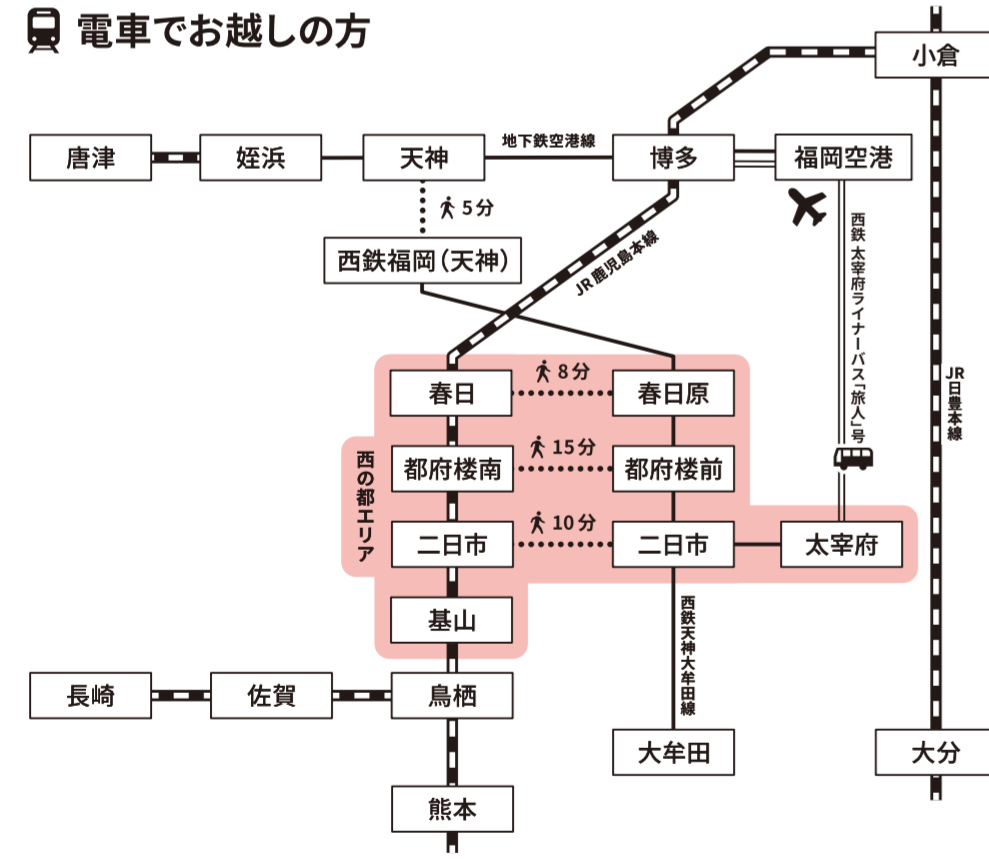


03 花開く文化

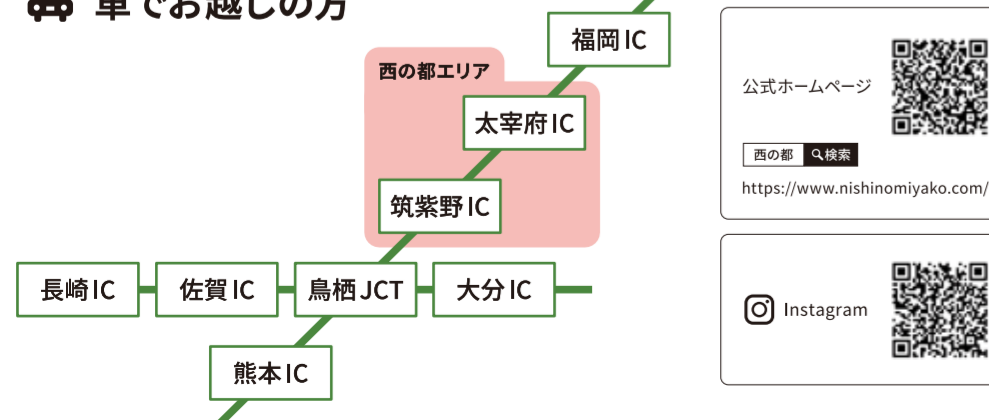


「西の都」大宰府には、数多くの新しい文化が流入し、集積していきました。大宰府を象徴する「梅」も、唐から持ち込まれた舶来の文物の一つで、大宰府の長官であった大伴旅人の邸宅で行われた「梅花宴」では、梅を愛でつつ和歌が詠まれました。また、当時は国家的にも仏教を積極的に取り入れようとした時代で、筑紫の地にも仏教文化が咲きました。「西の都」大宰府とその周辺には、今も国内外との多様な交流を伝える多くの文化財が残り、人々を魅了しています。

電車でお越しの方



車でお越しの方



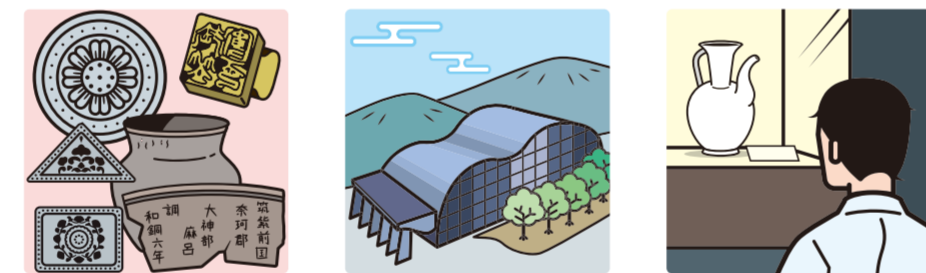
詳しくはこちら



見る・学ぶ

「西の都」の歴史を知る拠点

A ~ O



九州国立博物館

国際都市

東アジアにつながる国際交流都市

1・6・14・15・16



大宰府桑坊跡

大宰府跡

官道

国防遺産

日本最古の国防施設

2・3・20・21



水城跡

大野城跡

基肄城跡

道真公と天満宮

合格祈願で賑わう文芸の聖地

10・12・18・19



門前

太宰府天満宮

梅ヶ枝餅

オススメ!!

「西の都」の見どころ

日本遺産『古代日本の「西の都」』の案内人をつとめる、「にののみやこ」と申します。ここにはたくさん構成文化財があって、いろいろな魅力もっています。私なりに見どころをまとめてみましたので、皆さんもめぐってみてください。



ひとりで満喫

静かに楽しむ「西の都」の文化

11・13・19・28



御笠の森

太宰府の梅

杉塚廃寺

くつろぐ

遙かな眺めと憩いの湯

1・2・8・20・22・24



天拝山

次田温泉

万葉集筑紫歌壇

遺跡で満足

新たな魅力に出会う遺跡

7・26・27・29・30



牛頭須臾器窯跡

善一田古墳群

裂田溝

